

「スティール・ストール・ストールン」

—1稿—

2026/01/11
山極 瞭一朗

人物表

東雲 あさみ あさみ
元氣 げんき きな
浅見 あさみ ひな
紀菜 きな ひな

(25) (29)
(8)

怪盜
比奈の妹
万引き少年

警備員

1.

美術館・外観（夜）

消灯し、真っ暗な建物。

屋根を、人影が駆け抜けれる。

2.

美術館・防災センター（夜）

モニターには、防犯カメラの映像が映し出されている。
警備員たちはモニターに目もくれずに談笑している。

警備員たちはモニターに目もくれずに談笑している。
すると、ひとりが徐に立ち上がって、

警備員「巡回行つてきまーす」

懐中電灯片手に、気だるげに出ていく。

3.

美術館・階段～廊下（夜）

警備員は懐中電灯を照らしながら階段を降りる。そのまま廊下を進んでいく。

その背後で、人影が通り過ぎる。

警備員、気配を感じ、振り返る。ライトを照らすが、誰もいない。

ふつと息を吐き、踵を返し進む。

柱の陰では、浅見比奈（29）が警備員の背を見つめている。真っ黒な衣装に鬼のお面。

うざつたそうにお面を外して、

比奈「あつつい」

紀菜の声「ちょっとお姉ちゃん」

陽菜、さつと防カメを見上げて、

比奈「大丈夫、死角だから」

紀菜の声「緊張感ないな」

比奈「いつも緊張しすぎなんだよ」

紀菜の声「別にそんなんじゃないし」

比奈「はいはい、じゃ、行きますか」

紀菜の声「……慎重にね」

比奈「わかってるって」

と、汗を拭い、お面をつける。

4.

美術館・展示室（夜）

真っ暗な室内。中央にあるショーケースのみ、ライトが点されている。

その中には、骨董品。

『東洲斎喜重右工門茶器』とある。

紀菜の声 「制限時間は5分」

5.

美術館・防災センター（夜）

展示室の映像が映し出されたモニター。

比奈が展示室に入る。と、その瞬間、映像が切り替わり、無人に。

紀菜の声 「フライング」

6.

美術館・展示室（夜）

比奈、ショーケースの前に立っている。

比奈 「バレた？」

紀菜の声 「大丈夫だけど」

比奈 「なら問題なし」

比奈、指をポキポキと鳴らしながら、ショーケースの裏に回る。

比奈 「で、どうすればいい？」

暗証番号を入力するタッチパネルと、鍵穴。

紀菜の声 「4桁の数字を3セット入力したのち、鍵穴に専用の鍵を差し込む」

比奈 「番号わかつてんだよね」

紀菜の声 「もちろん」

比奈 「さすが我が妹。じゃあ、あとはこっちだけね」

と、お面の位置を正し、懐からピッキング道具を取り出す。

7.

美術館近くの道（夜）

路肩に軽自動車が停車中。

比奈、向こうから走つて来る。その手にはコンビニの袋。

8.

停車中の車内（夜）

運転席の浅見紀菜（25）、P.Cを閉じる。

助手席に比奈が乗り込む。コンビニ袋を後部座席に置く。

袋の隙間から茶器とお面が覗く。

「ちよつと、丁寧に扱つてよ」

「そんなすゞいの？」

「ほんと疎いんだから」

比奈、ニタつと笑う。

紀菜

「でも、お疲れ様」

「うちらに盗めないものはないね」

紀菜、苦笑して、車を発進させる。

9. 美術館・展示室（夜）

警備員たちはショーケースを囲んでいる。

茶器のあつた場所には、はがきサイズの厚紙が1枚。『お宝は頂戴した ミスター・スター』。ピンク色の鬼のマークのロゴ。

10. 芝浦・実景（昼）

東京タワーや芝浦ふ頭など。

11. スーパー・店内（昼）

比奈、カートを押しながら店内を練り歩いている。すると、お菓子コーナーにいる少年を視界に捉える。東雲元気（8）は辺りをキョロキョロしている。目の前にはチョコレート菓子。

と、さつとお菓子を手に取り、服の中に隠す。

比奈、ハツとして息を呑む。

元気、再度周囲を確認して、そそくさと立ち去ろうとするが……

比奈「待つて」

元気はビクツとして駆け出す。

比奈

「あ、ちょ……」

比奈も慌てて追いかけ、角を曲がる。
ちょうど元気が紀菜に衝突する。

「（めんね、大丈夫？」

比奈
紀菜
「紀菜」

元気は咄嗟に逃げようとする。

「捕まえて、その子」

比奈
紀菜
「さすが我が妹」

「どうこと？」

比奈
紀菜
「元気の服の中から、ぽてっとお菓子が落ちる。」

12.

スーパー・駐車場（昼）

軽自動車の前に比奈と紀菜と元気。

もじもじする元気の前に、比奈はしゃがんで、お菓子を差し出す。

比奈
「はい、これ」

紀菜、元気の頭を優しく撫でて、
「お姉ちゃんからのプレゼントだって」

「おいしいよね、私もこれ好きだよ」

元気、こつくりと頷く。

比奈、につこりと笑って、お菓子を握らせる。

「……ありがとう」

比奈
元気
「……うん」

「人の物を盗むのは悪いことだから」

紀菜、物憂げに比奈を見つめる。

「（めんなさい」

比奈
元気
「じゃあ、約束ね」

と、元気は小指を差し出す。
元気、徐に指切りをする。

比奈
「よし、いい子だ」

と、微笑んで、元気の頭を撫でる。

元気、僅かに笑みを見せる。

13.

道路（夕）

軽自動車が駆け抜ける。

14.

動く車内（夕）

助手席、比奈はチョコレート菓子を食べている。

運転する紀菜、比奈を一瞥して、

「らしくないね」

「ん？」

「万引き少年を捕まえるなんて」

「万引きはよくないことでしょ」

「特大ブームラン」

「確かに」

と、苦笑する。

前方の信号、赤になる。

紀菜はブレーキを踏んで、

「やめたくなった？」

「なんで？」

「最近わざとミスしようとしてる。この前だって、警備員に見つかりそうになつたり、カメラに映つたり」「偶然でしょ」

「……いいよ、私は」

「どした、どした」

「お姉ちゃん」

「……何よ？」

「私はいいよ。やめるって言うなら」

「……やめたくても、やめらんないでしょ」

信号が青になる。

紀菜、不安げに比奈を見つめて、アクセルを踏む。

比奈、くしゃっとお菓子のフィルムを握る。きこちなく笑つて、窓の外に目を向ける。

15.

コンビニ・店内（昼）

元気、ドリンクを物色中。周囲をキョロキョロと見

渡して、さつと一本を手に取る。バックにしまようと、走つて出でいく。